

一天教主

上卷

特35/

733

013841-000-6

特35-733

一天教主 上卷

藤原 道基/著

M22

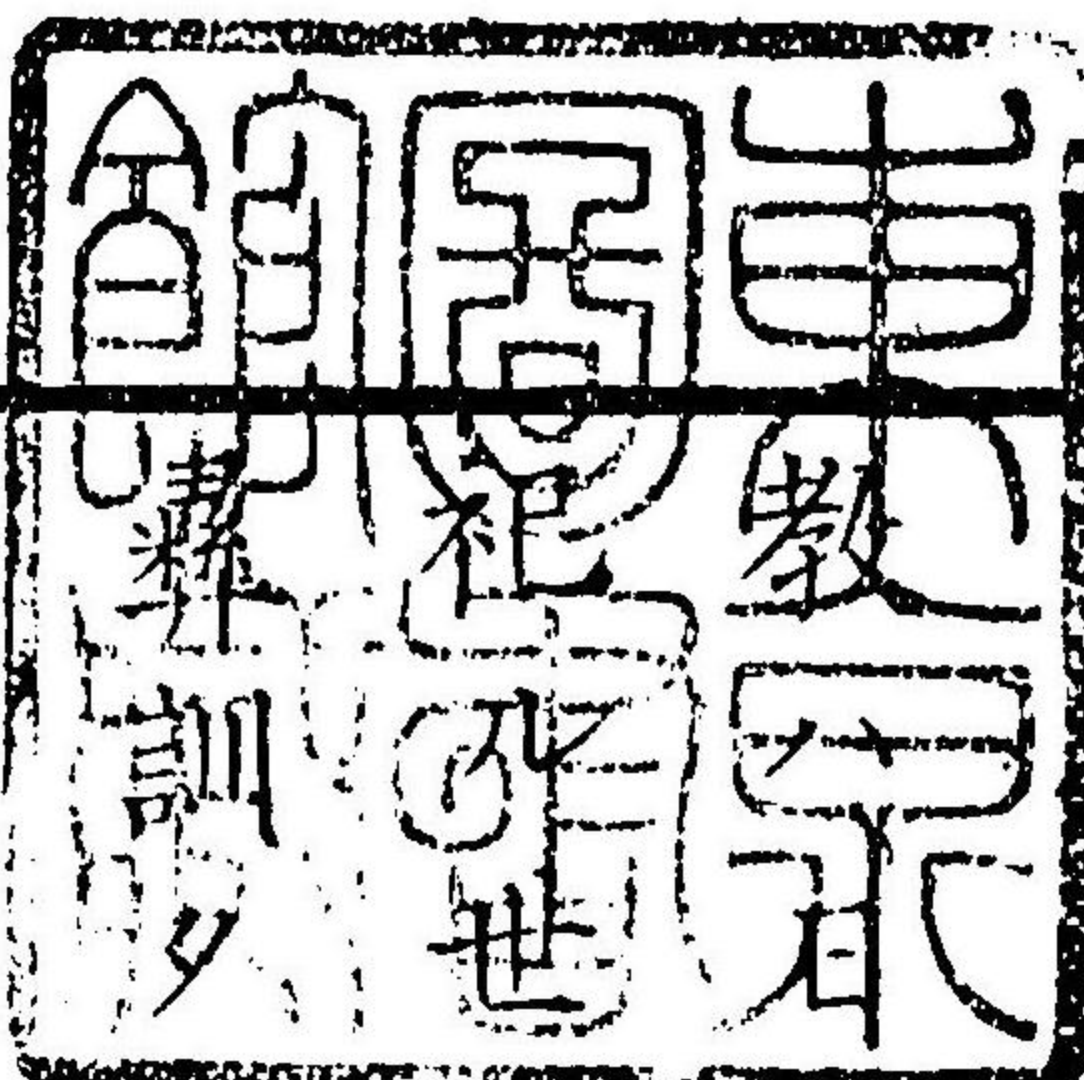
ABB-0050



特35
733

11023586/

22



藤原道基著

一天教主

上卷

大東園梓

一天教主緒論

日神顯ハレ太陽天ニ上リ三徳地ニ輝ク神



本固有ノ國教ニシテ天神地祇ヲ

舉テ神道ニ非ルハナシ抑神聖ノ

ルヤ言語ニ依ラス專ラ行事ニアリ

一トシテ法ナラサルハナシ下習フテ道ヲ

行ク民純朴ナリ之ヲ治メ之ヲ教ヘテ生ヲ

厚フシ用ヲ利シ徳ヲ正フセシム嗚呼隆ン

特35
733

№23586/
22



一天教主緒論

日神顯ハレ太陽天ニ上リ三徳地ニ輝ク神

本固有ノ國教ニシテ 天神地祇ヲ

舉テ神道ニ非ルハナシ抑 神聖ノ

ルヤ言語ニ依ラス專ラ行事ニアリ

一トシテ法ナラサルハナシ下習フテ道ヲ

行ク民純朴ナリ之ヲ治メ之ヲ教ヘテ生ヲ

厚フシ用ヲ利シ徳ヲ正フセシム嗚呼隆ン



藤原道基著

一天教主

大東園粹

ナル哉 三種ノ神教ハ忠孝ノ基トナリテ
吾大日本國ヲ組織セリ古ヘハ政教一ニ出
ツト雖終ニ岐ナラサルヲ得サルニ至リタ
ルハ時勢ノ然ラシムルモノナリ日本ハ質
ヲ尚ヒ西土ハ文ヲ尚フ而シテ彼ノ文物ヲ
移シ儒佛ノ二教ヲ奉スルニ至レリ異教ト
雖日本ニ入リテハ一ニハ神道ヲ補助スル
アルヲ以テ或ハ文質彬彬トシテ進歩スル

モノアリ此際人士出テ甲ヲ以テ乙ヲ退ケ
ントシ乙ヲ以テ丙ヲ攘レトス其軋轢甚タ
シキ者アリト雖儒佛ハ民心ニ濡染シテ終
ニ動ク可カラサルノ教ヘトナレリ加フル
ニ亦洋教ヲ奉スルモノアリ於是法門種々
ナリ譬ヘハ帝都ハ國ノ中央至誠ノ本ニ位
ス此ニ參朝スルモノ西隅ヨリ東陲ヨリ北
疆ヨリ南海ヨリ以テ入ル其里程各異ナラ

サルニアラスト雖孰レカ優孰レカ劣ナリ
ヤニ至リテハ亦之ヲ論シテ争ハサルナリ
余ハ将来ヲ察シ神教ヲ主唱スト雖他ヲ猥
リニ誹謗スルモノニアラス是レ一ニハ文
明ヲ助ケ一ニハ人欲ヲ制シ共ニ道德ヲ維
持シタルノ形迹アルヲ以テナリ神教ハ則
敬神尊王ヲ主トシテ専ラ倫理ヲ修ム皇
室ノ尊榮ヲ天壤ト共ニ無窮ニ保護スルハ

臣民タルノ本分ナリ 三種ノ教ヲ奉シ神
隨ノ道ヲ體セスレハアル可カラス嗚呼吾
國ハ世界第一ノ祖國ニシテ以テ萬國ニ冠
タルモノハ 皇統一系連綿トシテ上ニ在
リ臣民日本魂ヲ具ヘテ大義ヲ重ンス外人
稱シテ曰ク日本ハ地球無二ノ國體ナリト
ソレ心ヲ茲ニ止メ前途経綸ノ方針ニ注目
セスンハアル可カラズ神道ノ隆盛ヲ計ル

ハ神官ノ任トシテ世ノ識者豈ニ傍觀シテ
可ナランヤ鎖國ノ日本ニアラサレハ等閑
視ス可キモノニアラス吾神教ハ他ノ宗教
ニ異ナリ其隆レナルト否トニ依テ重大十
ル影響ヲ 皇室ニ及ホシ國權ノ盛衰庶民
ノ安危ニ關ス豈ニ顧慮セサル可シヤ余曩
ニ皇道會本部ヲ東京ニ設立シタルモノハ
則神道ノ擴張ヲ圖リ吾國固有ノ精神ヲ養

フノ外ナラス彼ノ洋土ノ如キハ官民一致
國教ニ熱心シ嚴ニ其教ヘテ奉シ其道ヲ盡
スカ故ニ家榮ヘ國富ム學士ハ漸次著書シ
其教ヘ八年ヲ積ンテ加マス鞏固ヲナスヲ
觀ル吾國教ニ於テモ亦然リト雖動モスレ
ハ誹毀ヲ計ルモノアリ其傍觀シテ助ケナ
ルノミナラス豈ニ慨嘆ニ堪ヘサル可シヤ
噫固有ノ國教ハ固有ノ國體ヲ維持スルノ

點ニ眼ヲ止メサルモノアリ神道ハ世界萬
民ノ因テ榮フル淵源ニシテ普ク仁マサル
ナキモノナリ臣民モ亦祇裔ナリ夫レ忠孝
ハ教ヘノ大本ニシテ智仁勇ハ政ノ大徳夕
リ天人ニ與フルニ性ヲ以テス而シテ道ノ
實體ニ具ハル道ヲ脩ムル教ヘハ後世ノ智
識如何ニ籍テ論派ヲナス是レ教派ノ分ル
、所以ナリ或ハ曰ク教法ヲ弘ムルノ外形

ハ開明ノ度ニ伴フテ漸々改良セサル可カ
ラスト同シ神道ニテモ數派ヲナシ隆ンナ
ルト否アリ是レ教ヘハ其原一ナリト雖分
派法則ノ時機ニ適スルト否トニ依ルモノ
ナラン太古ニ溯レハ地球上ニ至尊大教主
顯ハレ教法ノ由テ來ルコト各國ノ古史ニ
徴シテ符節ヲ合スルカ如キモノアリ則此
ニ一天教主ノ尊號ヲ奉シ唯誠神習フノ旨

趣ヲ以テ本著ヲナス所以ナリ余力不才ヲ以テ豈ニ人ヲ教フルノ場ニ居ランヤ唯宿意ヲ述ルノミ文體ハ勉メテ平易ヲ主トシ心理論ヨリ物理論ヨリ生理論ヨリ以テ入ル神道ノ蘊奧ヲ究メント欲ス然レトモ識者ノ教ヘニ依ラサレハ能ハス道ニ隨ヒ教ニ基ク俯シテ惟ンミレハ天祖ノ叡齊明晃世ヲ照シ寛厚大度民ヲ救ヒ剛毅果斷事

ヲ正ス則災ヲ禳ヒ福ヲ得ルノ門ヲ闢キ以テ其生ヲ安ンス而シテ蓬萊仁壽國ノ美ヲ世界ニ耀カセリ回顧スレハ諸宗教ノ生レタルハ亞細亞地ニシテ之カ基ヒトナリタルアリ神代ノ德風世ヲ教化スル朝日ノ萬物ヲ彩飾スルカ如シ其日本魂ヲ養フテ吾日本國體ヲ維持スルモノハ則神教ニアリ故ニ神隨ノ道ヲ奉體ン其正教ヲ以テ局ヲ

結ントス

紀元二千五百四十七年初冬

藤原道基識

一天教主上卷目錄

神魂論

道德綱要

五行論

神變論

無盡論

生理原論

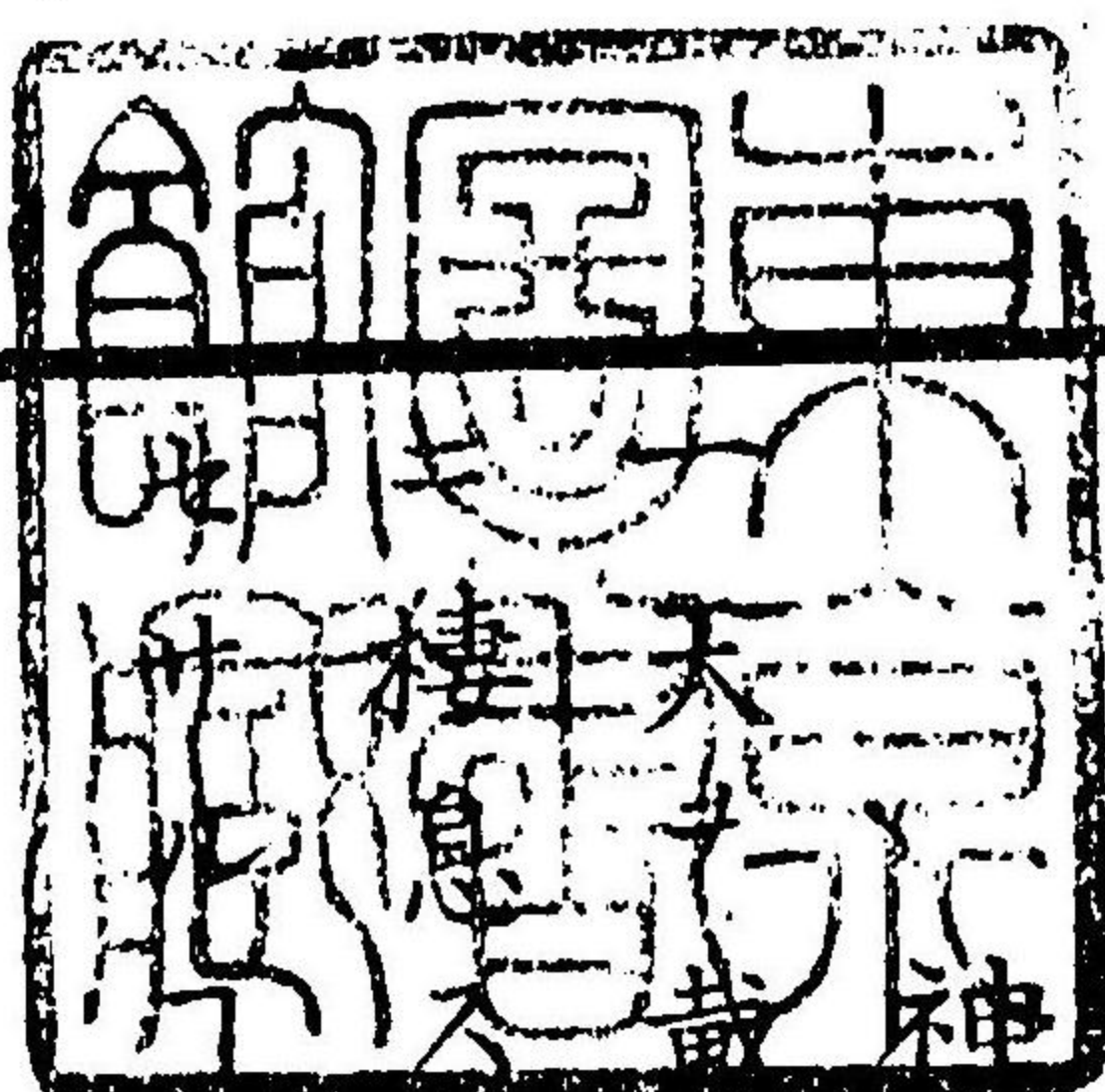
人種論

人壽論

體育論

一天教主上卷

藤原道基著



魂論

キ一氣ヲ共ニシ億萬ノ生民此地球上
 ルヤ五官能ク通シテ一モ已カ意ヲ達
 ナシ凡ソ天地ニ萬形顯ハレ物トシテ
 色アラサルナキ靈アラサルナキハ唯神アルヲ
 テナリ衣食住ヲ作り種々美麗ナル模様ヲ顯
 ハシタルモノハ唯魂在ルヲ以テナリ森羅萬象
 ハ神ノ奏功ニシテ文明製作ハ魂ノ奏功ナリ神

ハ天ニ位シ魂ハ人ニ位ス夫レ人ニ五官アルハ
則靈魂ノ自由ヲ達スル要具ニシテ目ニ萬ノ形
色移ル心之ヲ視ルナリ耳ニ音聲觸レテ心之ヲ
聞クナリ鼻ニ香臭觸レテ心之ヲ嗅クナリ口ニ
五味ヲ嘗メテ心之ヲ味フナリ身ニ寒暑觸レテ
心之ヲ覺ルナリ亦言語ヲ辨シ手足ヲ動カシ事
ヲ踏ミ物ヲ造ルヘシ身體ハ必竟假ノ宿ニシテ
靈魂ノ使用物ナリ心此ニ在ラサレハ何ソ物ヲ
觀聲ヲ聞クヲ得ン此靈魂タルヤ目視ル可カ
ラスト雖至貴至重ノモノニシテ六合ニ通スル

ノ妙カアリ身體ハ此ニ居然トシテ靈魂先ツ海
外異邦ヘ旅行スヘシ凡ソ都會ノ壯麗ヨリ鄙野
ノ景況山間僻隅ニ至ルマテ其状態ヲ相シ何處
ニ名所アリ何處ニ古跡アリト云フヲ亦動植
ノ物體ヨリ遠クハ日月星辰ノ形象ニ至ルマテ
悉ク其模様ヲ想像シ之ヲ研究シテ靈魂ノ至リ
盡サ、ルヲナシ或ハ博物地理等ノ圖書ニ倚リ
之ヲ觀察スル時ハ千里ノ外ノ人心ヲ知リ各國
ノ盛衰ヲ案フテ其差ハサルヲ實地ヲ踏ミ其人
ニ接シ其國ヲ觀ルニ異ラサル可シ亦陸路ヲ奔

ルニ瀛車ヲ以テシ波濤ヲ行クニ瀛船ヲ以テシ
電信電話ヲ以テ言語ヲ自由ニシ舟車ヲ以テ空
中ヲ奔騰スルカ如キモ皆靈龜琢磨ノ光明ナリ
此無限至妙ノ靈魂ハ父母之ヲ與ヘシヤ決シテ
與ヘシ者ニ非ルナリ然ラハ之ヲ與ヘシ者アリ
ヤ曰ク有リ大原大靈天之御中主神在リ是レ一
切ノ靈魂ヲ產生シ玉フノ神ナリ天主ト謂ヒ上
帝ト謂ヒ亦ハ造物主ト謂フモ皆天之御中主神
ノ謂ナラン唯各國其教ヘ異ナルニ依テ其尊稱
ヲ異ニスルノミ然リト雖其理ヲ究メサル教ヘ

ハ其原ヲ誤リ亦異同ナキヲ得ス一個凡人一
分子ノ靈魂ニ於ルモ前述ノ如ク天地通カノ妙
アリ此ニ世界一切ノ靈魂ヲ産成シ玉フ大原靈
ニ於テハ其大智大能測ル可カラス或人曰ク神
ハ吾心ナリ外ニ尊キ神ナシト予之ニ答ヘテ曰
ク天ニ神在ルハ恰モ人ニ靈魂在ルカ如シ人ノ
誠心則神ナリト雖己カ心神ヲ產生シ給ヒシ大
原靈ナシト思フハ大ヒナル紕謬ナリ凡ソ世界
一物トシテ原ナキモノ有ル可カラス豈ニ魂ノ
ミ其原ナシト謂フ可ンヤ譬ハ天ニ神靈在ルヤ

否ヤト疑フモノハ人ヲ指シテ靈魂在ルヤ否ヤ
ト疑フモノ、如シ人ニ小靈在ルヲ知テ天ニ大
靈在ルヲ知ラス是レ物ノ分子ヲ知テ其本原ヲ
知ラサル者ナリ於是乎世事惑亂シ人情輕躁ニ
流ル人若シ神ヲ問ハ、先ツ人ノ魂ヲ述ヘ而シ
テ后之ニ答フ可キノミ神ハ視ル可カラサルノ
靈ニシテ一天洪々蕩々トシテ在ラサル所ナキ
ノ妙體ナリ神ハ世界ノ隱顯一トシテ視サル
ナク聞カサルナク知ラサル所ナク其善ヲ賞
シ其惡ヲ罰スル六合寸分モ漏スナシ或ハ曰

ク天神十六神合シテ一體唯天之御中主神ナリ
空中ニアリテハ精靈ノミ精靈流レテ大陽ニ止
マルモノハ化シテ神體トナル現没自在ナリト
後ニ日球ヲ總攝シ給フ神尊現ハレ大光明ヲ發
シ真理由テ出ツ凡ソ人ノ靈魂モ寒度中ニ居ラ
サレハ大陽中ニ神靈ノ鎮座シ給フニ必然タリ
宇宙ノ形體至テ明ラカナル至テ麗ハシモノハ
日輪ニ如クモノナシ況シテ天神悉ク此ニ集リ
テ靈魂ヲ人ニ賦與ス人仰テ幸福ヲ祈リ俯シテ
愛憐ヲ請フ以テ感應加護ヲ得ルモノハ抑由ア

ルナリト又曰ク天之御中主神ハ天中ノ主宰ナ
リ天ノ中央トハ北極紫微宮ノ邊ヲ指ス則神ノ
居所本部ナルカ如シ而シテ能ク衆星ヲ輪ラス
神靈ハ大虚空中ニ満チ彌ラサル所ナシ一方ニ
顯ハル、高皇産靈神ハ陽德ニシテ一方ニ顯ハ
ル、神皇産靈神ハ陰德ナリ造化三神ハ一體ノ
如ク不測ノ妙徳ヲ以テ能ク產生シ能ク調理ス
ト其大智究メサルナク其大仁至ラレルナク其大
力盡サ、ル所ナシ大ヒナルニ至リテハ億萬ノ
世界ヲ造リ之ヲ旋轉セシメテ常ニ止マス小十

ルニ至リテハ顯微鏡ノ力ヲ以テストモ容易ニ
視ル能ハサルモノ之ヲ造リ之ヲ守護シ給フ寒
暑往來シ天地ノ形氣循環シテ生々化々已マス
萬物ノ組織精密ナルヲ觀テ神智ノ巧ミナルニ
驚クヘシ五色顯ハレ五味具ハリ五聲ヲ發スル
モ亦瀛車瀛舩電信電話モ皆神ノ妙用ナリ唯其
理ヲ究メ器械ヲ製造シテ限リアルノ人力ヲ盡
スノミ世人其妙用ヲ視テ則神ナリ則理ナリト
謂フモノハ蓋シ造化大元主宰アルヲ證スルモ
ナリ凡ソ畫工花鳥山水ヲ寫シ工匠物品ヲ製

スル等總テ美術ヲ世ニ顯ハスハ皆造化ノ妙工
 ヲ龜鑑トシテ之ニ模擬スルモノナリ故ニ神ハ
 學ノ本ナリ智ノ本ナリ嗚呼至尊ナル哉此ニ三
 德凝結シテ智元ニ顯ハレタルハ則世界ノ大主
 宰天照太神ナリ仁元ニ顯ハレタルハ月夜見尊
 ナリ勇元ニ顯ハレタルハ素戔嗚尊ナリ三德ヲ
 継紹シテ地球ヲ治メ給ヒタルハ天津彦穗瓊瓊
 杵尊ナリ天之御中主神ハ遠天帝ナリ天照皇太
 神ハ中天帝ナリ天津彦穗瓊瓊杵尊ハ近天帝ナ
 リ天下ノ蒼生誰カ德澤ニ沐浴セサル者アラシ

ヤ人ノ魂ハ玉ノ如シ教ヘナクシテ曇ルアリ教
 ヘニ依テ光ルアリ荒御魂アリ和御魂アリ身體
 ハ一回ノ死ヲ免カレスト雖本原ニ復シテ不滅
 ナリ現行遺訓亦不滅ナリ是レ人ノ勲功偉烈ア
 ルノ靈魂ヲ地祇ニ列シテ奉祀スル所以ナリ此
 玉ヤ原純白柔キカ如キモノニシニ曇リ易キ亦
 磨キ易キモノナリ其暗其光モ帝教ヘノ一點ニ
 アリテ善トモナリ惡トモナリ練磨ノ功ヲ積テ
 終ニ聖神トナルニ至ルヘシ夫レ水ハ澄ムヲ以
 テ性トス然リト雖邪惡侵入シテ濁ストアリ元

ノ如ク澄マント欲スレ氏濁リ屢スレハ終ニ澄
ムト能ハス泥物トナル至テ清キ水ハ更ニ濁リ
ニ染ムトナシ魂亦然リ習ヒ則性トナルモノナ
リ凡ソ外物五官ニ觸ルレハ心靈ハ其物ノ物夕
ルトヲ覺ヘ能ク記ス或ハ其作用ヲ悟レハ之ヲ
熟思ス或ハ無形ノモノヲ想像ス此ニ於テ往時
ヲ知リ將來ヲ觀ル學ヲ積ミ道ヲ體シテ脩身齊
家治國ヲナス究理發明シテ種々ノ機械ヲ造ル
人知ノエミナル亦驚クヘシ人ニ七情アルヲ推
シテ神慮ノ深厚ナルヲ惟ルヘシ是レ人ノ善惡

神ノ賞罰ニ關リ災禍福德ヲ今世ニ示シ亦來世
靈魂ノ位ヲ分ツテ高天原ニ永ク存スル所以ナ
リ身體ハ父母之ヲ生ム故ニ子タルノ道ハ孝ヲ
盡スニアリ而シテ身體ハ神ノ造リ給フモノニ
シテ其保護ニ依ラサレハ須臾モ生ク能ハス靈
魂ハ則神ノ產生シ給ヒシ分子ナリ人其恩澤ヲ
感謝セスンハ萬物ノ靈タル義務ヲ虧クモノト
謂フヘシ人ハ六根清ケレハ魂モ亦神ノ如シ嗚
呼奇ナル哉妙ナル哉

道徳綱要

第一章

天理ニ基キ人道ヲ明カニシ固有ノ日本魂ヲ養
フニアリ天人ニ與フルニ性ヲ以テス是レ道ノ
立所以ナリ道ハ天ヨリ出テ、實體ハ人ニ具ル
故ニ人能ク道ヲ體スル時ハ道已ニアリテ能ク
道ヲ弘ムト云

第二章

大道ハ 伊弉岐伊弉册ノ二神ニ興リ 天照皇
太神奉紹シ給ヒ之ヲ 皇孫天津彦穗瓊杵尊

ニ授ケ給フ而シテ幽事ハ 大國主神之ヲ主リ
給ヒ顯事ハ 皇孫主リ給フ以テ 人皇歷代ニ
傳ル是レ 皇道ノ來由ニシテ天壤ト共ニ無窮
ナル所以ナリ

第三章

玉 眞實
鏡 明白
劍 正直

三種ノ神教

第四章

温厚 廉貞 遜讓 叡明 節固

等ノ實行ハ神代ニ顯レテ昭々タリ後ニ稱スル
仁義禮智信モ本吾國ニ基セリ日本ハ質ヲ尚ヒ
西土ハ文ヲ尚フ吾國ニハ上古文字アリシカ漢
字傳播シテヨリ吾文字廢滅スルト共ニ固有ノ
名目廢滅スルモノアリ故ニ五常ノ實アリテ其
名ナシ於是漢字ヲ以テ事實ヲ書ス西土ノ治教
資テ以テ皇猷ヲ賛ク是レ日本ト漢土トハ親
睦ニシテ治教亦適スルモノアルカ故ナリ名教
ノ精密ナルモノヲ資ルト雖其實固ヨリ吾レニ
アリ吾國ノ文字歸テ外國へ傳ハリタルヲ知

ルヘシ

第五章

君臣ノ道

父子ノ道

夫婦ノ道

兄弟ノ道

朋友ノ道

五倫ノ道

此五典ノ道ヲ盡スニ誠一ヲ以テスレハ則チ

義信別序信トナル

天照皇太神

皇孫天津彦穗瓊杵尊ニ勅シテ曰ク豊葦原千
五百秋之瑞穗國是吾子孫可王之地也ト於是八
坂瓊曲玉八咫鏡草薙劍三種ノ神器ヲ賜フ是ヨ
リ君臣父子ノ大義著レテ國體ノ尊嚴ナル萬國
無比ニシテ三種ノ神教ヲ以テ萬民ヲ教化シ給
フ臣トシテ天位ヲ犯ス者アルトナシ能ク神
隨ノ道ヲ奉體スは大義ヲ重ニスル所以ニシテ
忠孝誠一ヲ以テ國家ヲ維持ス萬世不朽教ヘノ
大本ナリ
太神重曰視此寶鏡當猶視吾ト寶鏡ハ

天祖ノ神ニテ永ク皇運ヲ守護シ給フノ命ナ
リ父子ノ親是ヨリ厚キハナシ
伊弉諾尊伊弉冊尊美哉善ノ歌ヲ唱ヘ給フ是
夫婦別アルノ起リナリ
天照太神ハ高天原ヲ御スヘシ月夜見尊ハ夜
食國ヲ御スヘシ素盞鳴尊ハ滄海原ヲ御スヘ
シト是兄弟ノ序ナリ
天兒屋命布力玉命思金神手力男神等ノ諸神協
力誠忠以テ皇孫ヲ輔翼シ奉リ朋ヲ以テ仁ヲ佐ケ
其固守スル者アル則朋友ノ信ナリ

第六章

大己貴命 少彥名命心ヲ一ニシ 伊弉岐伊弉
冊尊ノ生成シ給ヘル國土ヲ經營シ衆庶ヲ愛憐
シ災ヲ攘ヒ病ヲ療シ醫藥禁厭ノ方ヲ定メ萬民
ヲ教化シ給フ其進ムニ德義ヲ以テシ其退クニ
德義ヲ以テス

第七章

神武天皇公明盛大ナル至誠ヲ以テ天ノ日嗣ヲ
定メ至德ヲ天下ニ施キ黎元ヲ撫育シ給フ此ニ
於テ教化大ニ霑ヒ萬世無窮ノ大業ヲ立 人皇

ノ祖トナリ給フ天地ト其德ヲ合ス 仁德天皇
人民ノ困敝スルヲ憂ヒ課租ヲ蠲免シ其窮困ヲ
賑恤シ給ヒ後高臺ニ登リ炊煙ノ盛ニ起ルヲ
叡觀シ給フ此ニ於テ下民仁政ニ浴シ高キ屋ノ
和歌ヲ祝シテ萬歳ヲ唱フ神教ハ功德教ヲ以テ
成ル 歷代天皇ノ仁政忠臣義士孝子節婦等ノ
行績ハ國史ニ顯レテ萬代ノ鑑タリ則道德教立
チ勸善懲惡ノ主義ヲ明カニセリ

第八章

神道ハ造化ノ神靈ヲ尊奉ス故ニ受造ノ人靈ヲ

尊フ天地開闢以來地祇ノ神靈ハ高天原ニ鎮座
シ給フヲ總テ百萬神ト云日本ニ高天原アル
ハ顯事ニシテ是神州ノ神州タル所以地球人種
ノ始祖國タル證跡ナリト

第九章

將來ヲ察シ萬國ニ對シテ日本神教ヲ皇張セン
ニハ必ラスヤ上ニ溯リ造化 天之御中主神ノ
功德ヲ論セサル可カラス是 天祖ノ功德ヲ益
尊崇スル所以ニシテ古史ノ正確ナルヲ遵奉シ
知仁勇ノ本元地球ニ興リタル所以ヲ説キ國體

ヲ永遠ニ維持スルノ道ヲ明カニスルモノナリ

第十章

祭ハ政ナリト一族ノ其祖先ヲ尊ンテ祭ヲナス
モノハ祖先ノ偉業ヲ稱賛シ且恩澤ヲ報謝スル
モノニシテ現今子孫ノ繁盛ト親睦トヲ祝表シ
其遺訓ヲ奉シ其志ヲ一ニシテ互ニ家道ヲ保守
セシカ為ナリ之ヲ大ニスレハ一村一郡一國舉
テ一ノ祭ヲナスモノアル天下ノ治是ヨリ麗ハ
シキハナシ

第十一章

世ノ道德ヲ維持シ且其國體ヲ保護スルモノハ
何種何派ヲ論セス之カ保存ヲ計ルハ亦其信徒
ノ義務ナリトス是道ヲ信スルノ篤キモノニシ
テ之ヲ他ヨリ少シモ誹毀スルノ權ナキモノナ
リト是萬國公論ニ基キタルモノナリ世ノ中ハ
優勝劣敗ヲ免カレスト曰ヘハ自ラ奮ヒ自ラ勵
ム可キノミ社會ノ人心同シカラサレハ天下ヲ
舉テ一宗教ニトサントスルハ到底難キモノナ
レハ他ヲ敵視スルトモ其益ナキモノナリ凡ソ
一方ノ擴張ヲ計レハ他之二伴ヲテ相興ラサル

ヲ得ス而シテ對立スル時ハ世ノ宗教益振起ス
ルニ至ルモノナリ是宗教隆シナラサレハ道德
ヲ維持スルノ難シト云ノ說ニ據リタルモノナ
リ

第十二章

神聖ノ行事一トシテ教ヘニ非ルハナシ古事記
日本書紀古語拾遺等ニ依テ其蘊奧ヲ究メ教ヘ
ノ尊キヲ奉スヘシ夫レ孝ハ萬善ノ本孝ニシテ
忠ナラサルハナシ其教法萬方ニ涉ルモ其之ヲ
卷ケハ誠一二歸ス三種ノ本心ヲ練磨シ日本精

神ヲ地球ニ輝スニアリ

第十三章

暗室ニ座ストモ已一人ト思フ可カラス時トシテ神在サ、ル所ナシ隱微其獨ヲ慎ムニアリ小人ハ暗キ處ニ於テ罪ヲ犯ス者多シ夫レ惡事露顯セサルヲナシト謂フ所以ノモノハ世界一天一氣ナレハナリ天地萬物一體ニ基ク道ハ一ニシテ此地球上萬國生民寒暑風俗ヲ異ニスルモ各一氣ヲ呼吸シテ其性ヲ養フ此ニ吐露シタル氣彼レ吸フ彼レ吐露シタル氣此レ亦吸フ彼此

交換止ム時ナクシテ共ニ肺肝ヲ天ニ吐キ顯ハス是人ノ思想ヲ交換シテ惡事ヲ隱蔽スルヲ能ハサルノ原理ナリ

第十四章

兇殺竊盜姦淫妄言貪欲等ヲ誠ムルハ則神法ニシテ何レノ教ヘカ一ナラサラン抑 神聖ノ彛訓タル不言ノ中ニ教ヘヲ寓ス行事一トシテ法則トナラサル者ナシ而シテ教誡ハ簡ニシテ盡セルモノアリ人ハ善ヲ為ス可シ惡ヲ為ス可カラスト云ニアリ今之ヲ委詳ニ述ルモ亦無益ナ

ラサルヲ信ス吾國ノ質ヲ尚ンテ文ヲ尚ハサ
ルカ如キモノアリシハ人民淳朴ナルカ故ニ統
轄シ易キヲ以テナリ儒教佛教入ルニ對シテ自
然教法解説ノ密ナルヲ要スルニ至リタルハ時
勢ノ然ラシメタルモノナリ夫レ神慮ニ適フト
謂フ所以ノモノハ何ソヤ曰ク潔白ナリ是一點
ノ曇リナキ仮令ハ玉ノ本質ニシテ精神則誠ヲ
具フ之カ誠則ヲ論スレハ五色ニ觸レテ其序ヲ
紊ス可カラスト曰フニアリ人ハ本心ヲ練磨ス
ルニアリテ兇殺竊盜ノ念ナク人ノ夫妻ニ眷戀

セス更ニ邪念ナキモノ則是ナリ已ニ適セスト
モ人ヲ憎惡ス可カラス已ヲ顧ミテ人ヲ怨恨ス
可カラス人ヲ嫉妒ス可カラス人ヲ誹謗ス可カ
ラス既往ヲ悔ミテ心魂ヲ痛ム可カラス流ヲ從
フテ情ニ溺ル可カラス功ヲ遂ルヲ目的トシテ
中途ニ忿怒ヲ發ス可カラス等ノ條目ヲ排除シ
テ初メテ心清清ナリ此心ヨリ發スルモノ則至
誠ノ道ニ中ル敬神忠孝ヲ主トス至誠ハ日月ト
其明ヲ共ニス已ヲ愛シ人ヲ愛シ能ク國ヲ愛ス
人ハ積善ヲ旨トスルカ故ニ信義ヲ以テ世ニ交

ル尊敬ヲ要ス人ノ美事ハ則善道ニアリ已カ憂
苦ニ比シテ人ノ憂苦ヲ勞フヲ知ル可シ鰥寡孤
獨ヲ憫ミ凍餓ヲ救ヒ疾病ヲ助ク生ヲ祝ヒ死ヲ
吊ヒ能ク恩惠ヲ報謝スルヲ知テ已カ優ヲ以テ
人ノ劣ヲ侮ル可カラス人ハ道脩マレハ德進ム
謹慎シテ事ヲ執ル已ヲ正シテ謙遜ス忍耐以テ
困苦ニ克ツ事ハ勉強ヲ以テ遂ク節制以テ身ヲ
保ツ立志剛毅ナル可シ

第十五章

人ハ教法ニ依テ道ヲ脩ム而シテ一事ヲ興セハ

天下ノ盛業ナリ或ハ人壽ヲ欲シテ生理學ヲ隆
ンニシ衛生ノ道ヲ開ク或ハ墮胎壓殺ヲ未遂ニ
防禦シテ人種ノ蕃殖ヲ計ル或ハ土地ヲ開墾シ
テ農事ノ改良ヲ計ル或ハ殖産工業ヲ隆ンニシ
テ運輸ノ道ヲ開ク或ハ教學ヲ盛レニシテ人道
ヲ明ニスル等進テ百般ノ學科ヲ興ス物ハ永久
ニ保存スルヲ知テ此ニ能ク進取シテ開明ノ度
ニ達ス

五行論

天ニ寒暑風燥濕ノ五運アリ地ニ木火土金水ノ五行アリ氣ヲ運ラシ形ヲ顯ハス天地ノ形氣相感シテ萬物ヲ化生ス此ニ於テ天ニ五星アリ地ニ五色アリ人ニ五臟アリ物ニ五味アリ亦人ノ毛鬣ハ木温煖ナルハ火皮肉ハ土骨骼ハ金淚血ハ水ナリ天ノ靜カナルヲ氣ト謂ヒ氣ノ動ケヲ風ト謂フ風ハ即チ東方甲乙生發ノ氣ナリ玄神ヲ生ス神天ニ有テハ五氣ト為スト是日支固有ノ論ナリ今原素ヲ數十余ニ細別ス其聚合シテ

地ニ顯ハル、モノハ金水火土ノ四行タリ動植物ハ素ヨリ四行ニ因テ生ル、者ナリ然ラハ木ハ原料ニ非ル、明カナリ然ルニ木ヲ五行ノ一ニ加ヘタルモノハ其旨タル生剋變化ノ理ヲ明カニセンカ為メナラン夫レ木トハ植物ノ總稱ニシテ各菓實ヲ結フ是天然ノ食物ニシテ人之ニ依テ生ヲ保ツ亦四時開華シ人目ヲ悦ハシメテ倦マサラシム家屋モ木ヲ以テ造リ器具モ多ク木ヲ以テ製シ衣服モ綿ヲ以テ製スレハ衣食住ノ過半ハ先ツ木ノ一點ヲ以テ補フモノト謂

ツヘシ衣食住ニ就テハ一日モ火ナカル可カラ
ス水ナカル可カラス金ナカル可カラス土ハ地
球ニシテ物體ヲ造ル所以ナリ火ノ原ハ大陽ニ
シテ大光明ト大温熱トヲ發シ萬物之ニ由テ繁
殖ス日光ノ物ニ移ル元五色ナリ厚薄混シテ七
色ヲ顯ハス地上ノ物ニ移リタルノ色ハ必ラス
之ニ徹シテ諸質ニ應シテ固著ス是物ヲ美麗ニ
彩飾スル所以ナリ之ニ依テ鑿ミレハ大陽中ニ
如何ナル靈妙ナル原素固有スルヤ亦知ル可カ
ラス大陽ニ由テ地球ニ火アリ萬物ニ熱具ル所

以ニシテ地中ニ火氣集リ温泉湧出ツルアリ萬
國ニ噴火山アリテ地震ヲ防ク人ハ火食ヲ以テ
物ノ味ヒヲ享ニスヘシ盆栽一撮土モ能ク育ツ
亦小蟲棲息シテ食事ニ孳々タルヲ觀ル土アレ
ハ必ラス植アリ植アレハ必ラス生アリ其植ハ
其生ヲ養フモノナリ是世界ニ動植物生死ヲ常
ニシ富貴榮花ヲ爭フ所以ニシテ萬物ハ皆土ノ
化シタルモノニシテ土ヨリ出テ、土ニ歸ルモ
ノナリ金氣亦萬物ニ含マサルモノナシ人身ノ
健康ヲ保ツモ骨骸ノ堅固ナルカ故ナリ世上ノ

金器日日禿サルモノナシト雖消ルモノニ非レ
 ハ土ニ止マリ川ニ流レ亦海ニ止マル此止マリ
 タルモノハ地中火熱ノ為ニ凝集セラレテ亦鑛
 山ノ基ヲナス是金氣流動シテ盡キサルモノナ
 リ地中ノ金屬ハ皆生活ナルカ故ニ年々歳々其
 體ノ太リ嵩マサルヲナシ火ヲ以テ鍛鍊シタル
 金器モ年ヲ經レハ火氣去リテ活ニ歸ルヲアリ
 ト水ハ時トシテ旱魃洪水等ノ如キ大ヒニ増減
 アリト雖實ハ天地開闢以來一滴ノ増減ナシト
 云唯天變ニ依テ不平均ヲ生スルノミ天寒ヲシ

テ水氷ルト云モノハ則形氣ニシテ天ニ有テハ
 寒ナリ地ニ有テハ水ナリ水ハ此地球ヲ廻リテ
 氣脈ヲ通ス此ニ變動アレハ彼レ應シ彼レ變動
 アレハ此レ應シテ必ラス相平均ヲナス地中ノ
 火熱ト萬物ニ具ル火熱ヲ以テ水液ヲ蒸ス故ニ
 日夜蒸氣ノ空中ニ登ルヲ絶ヘス雲ヲナス空ハ
 寒冷ナルカ故ニ雲縮リテ雨トナリ降リテ地ヲ
 潤ス升降暫時モ止ムナシ水ノ本性ハ鉄ヨリモ
 堅クシテ極メテ黒キ物ナリト雖冬ニ至レハ雪
 積リテ銀世界ヲナス大寒國ニ於テハ海川共ニ

氷結シ恰モ鐵石ヲ敷クカ如ク氷ヲ以テ家ヲ築
 キ火ヲ以テ蟄居スト云モ怪ハニ足ラス氷ノ形
 巖巖乎トシテ四時解クル丁ヲ知ラス是水ノ性
 質ナリ唯太陽ノ温熱ニ依テ其姿軟和ニシテ能
 ク方圓ノ器ニ從ヒ散テハ雲トナリ霧トナルヘ
 シ嶺ヨリ落ル瀧ハ白糸ノ如ク谷ヲ傳ヒ川ヲ流
 レテ海ニ入ル海ニ鹹味ヲ止メテ亦蒸昇ス其堅
 キ鉄石ノ如キモ或ハ融液トナリ或ハ浮氣トナ
 リ天地ヲ循環シテ須臾モ止マラス以テ動植物
 ノ生命ヲ維持スルヲ得水ノ分子ハ球状ニシテ

顯微鏡ノカヲ以テストモ容易ニ視ル可カラス
 ト云是五行ノ功用ニシテ天ノ五運ニ至リテハ
 其妙用亦不測ナリ日新此ニ切蹉スレハ其形氣
 復歸離合ノ理ヲ識別シテ造化ノ神機ヲ明察ス
 ルニ至ランカ甲ハ生木ニシテ乙ハ死木ナリ木
 ハ天ニ有テハ五運ノ一ヲ風トス則形氣ノ別ヲ
 立タルモノニシテ豈ニ有形ノモノト其格ヲ並
 列センヤト金木水火土各風ニ依テ其形色ヲナ
 ス之ニ依テ鑿ミレハ風ハ其原ナリ風ハ即氣ナ
 リ唯動キテ其名ノ出ツルノミ故ニ風ト曰ヘハ

暑寒燥濕亦其中ニ包含セサルヲ得ス是天ニ有
 テハ形ナクシテ氣ナリ地ニ有テハ則木火土金
 水ト立タル所以ナリ古哲固ヨリ風ヲ曰ハサル
 ニ非ス其所謂五行ニ無形ノ風ヲ加フレハ六ト
 ナルハ人ニ於ル耳目口鼻膚ノ五官ニ無形ノ心
 魂ヲ加フレハ亦六トナルカ如シ一説ニ據レハ
 高皇産靈神神皇産靈神葦牙彦舅神天之常立神
 國之常立神以上五神ハ五行ノ精靈ニシテ時ト
 シテ神體ニ顯ハレ給ヒシナリ天之御中主神ハ
 五神ノ主宰ナリト故ニ物ハ六ヲ以テ起リ亦六

ヲ以テ成ル者多シ凡ソ圓體ノモノハ是ヲ圍ム
 ニ六ヲ以テス故ニ其運轉モ亦六ヲ以テス六六
 三百六十度はナリ人身ニ於ルモ肩ヨリ指先キ
 ニ至ルマテ六ニ屈伸ス腰ヨリ趾先キニ至ルマ
 テ亦六ニ屈伸スヘシ三百六十有餘血アリテ一
 身ヲ爲ス所以ノモノハ蓋シ故アルナリ嗚呼忽
 焉トシテ生レ忽焉トシ去ル形氣此ニ循環ス天
 ヲ仰ケ八月旋リ星回リテ日出ツ時往テ止マス
 地ヲ望メハ草木繁茂シ禽囀リ歌啼ク水流レテ
 息マス花此ニ開キ果此ニ結フ

神變論

無限鴻大ナル哉天之御中主神ハ大空ヲ以テ一
心トシ億萬ノ世界ヲ總統ス吾地球モ行星ノ其
一ニシテ自轉以テ晝夜ヲナシ公轉以テ四季ヲ
ナス昔日ハ地球ノ自轉スルヲ知覺セサルカ故
ニ地ハ方ニシテ天ハ圓シ日月星辰地球ノ外ヲ
圍リテ晝夜互更シ寒暑往來スト或ハ之ニ反シ
テ地動ノ說ヲ唱フル者アリシカ終ニ地動ノ說
ニ歸シテ天文ノ學隆シニ行ハレ一トシテ究理
セスト謂フ一ナシ今天ヲ仰ケハ列星赫々皎々

トシテ恰モ金銀ノ砂ヲ散スカ如シ其數幾億萬
ナルヲ知ラス望遠鏡ヲ以テ夜ニ觀テ日ニ算リ
大小ノ形狀周圍ノ里數等ヲ詳細ニ示セリ行星
ハ吾地球ト同シ體ニシテ吾地球ヨリ大ヒナル
一八十倍ナルアリ一千倍ナルアリト雖唯一粒
ノ小サキニ見フルモノハ其距離ノ遠キヲ知ル
可シ凡ソ宇宙間ニ形體アレハ一トシテ之ヲ究
メサルモノナキハ開明ノ功ニシテ其物理ヲ盡
スニ至リテハ人智ノ工妙驚クヘシ此億萬ノ世
界モ各自轉シ亦公轉スル一吾地球ニ異ナル一

ナカル可シ唯遅速ノ差アルノミ故ニ行星ハ吾
 地球ノ如ク外ニ生氣アリテ應ニ動植物生育ス
 ヘシト或ハ行星ハ吾地球ニ異リ外ニ生氣ナク
 シテ動植物生育スル能ハスト是何レカ信ナル
 ヤ誠ニ知ルヲ難シト雖天ハ一モ贅物ヲ造ラス
 ト曰ヘリ然ルニ行星ハ我地球ノ如シト雖外ニ
 生氣ナクシテ動植物生育スル能ハスト曰ハ、
 天ハ何カ故ニ斯ル大ヒナルモノヲ夥多創造セ
 ラレタルヤト亦推究セサル可カラズ天豈ニ一
 モ贅物ヲ造ルノ理アランヤ是吾地上ニ於テ天

ノ創造セララル、モノ一モ贅品ナキヲ以テ理ヲ
 推ス可シ物ハ太陽ノ光熱ニ依テ生殖ス而シテ
 吾地球ト太陽ノ距離ニ比準シ他ノ行星ハ光熱
 ヲ受ルニ吾地球ニ異リ良厚薄アレハ嘗テ生育
 ノ道ナシト謂フハ究理ノ當然ナリト雖神機ノ
 妙工ハ人智ヲ以テ究理ス可カラサルモノナリ
 神ハ大智大能ニシテ被造者一モ贅品ナク物ト
 シテ生アラサルナシ故ニ行星ハ吾地球ノ如ク
 外ニ圍繞スルノ大氣アラサレハ之ヲ維持スル
 ヲ難キモノナレハ其生氣アルヤ否ヤト疑フモ

ノハ非ナルカ如シ而シテ人物アルヤ否ヤニ至
 リテハ固リ知ル可カラズ博物學ニ就テ鑿ミル
 二天之御中主神ハ無數ノ一書ニ恆星人ノ肉眼
ト云恆星ヲ統攝ス之ニ附屬スルノ遊星計ルニ
 算ナシ而シテ各一地球ノ形勢ヲナスト是ヲ至
 大至妙神變不測ト謂フ可シ或ハ曰ク世界ハ自
 然ニ成立シモノナリ吾地球モ無一物ナル空中
 ニ自然埃リ積ンテ成リタルモノニシテ別ニ神
 カニハ非ルナリト其論據トスルモノ茫然トシ
 テ甚危シ其自然ニ成リシモノハ則神ノ創造ニ

係ルモノナリ世界ハ悉ク無心ニ成立テ神ノ保
 護ニモ憑ラサルモノトセハ風雨雷電其度ヲ誤
 リ自ラ地力ヲ失ヒ終ニ破壊ヲ免レサルハ勢ノ
 自然ナルモノナリ然ルニ如此虞ナク一點ノ差
 ナク晦明ヲ分キ一秒モ紊レサル者ハ何ゾヤ是
 天之御中主神ノ保護シ給フニ憑レハナリ故ニ
 究理書ヲ閱ルニ人智ノ究理スル能ハサル者之
 ヲ神ニ讓リテ其奧ヲ論ゼサルモノハ真二人智
 ノ究ム可カラサル者ナラン嗚呼一天際涯ナシ
 北辰寂然トシテ動カス衆星此ニ旋轉シテ止マ

ス

無盡論

人ノ眼球ニ移ルモノハ形ナリ形ハ則質ナリ則色ナリ質アレハ必ラス長短方圓ノ形ヲ為サ、ルヲナシ形アレハ必ラス紅綠黃紫ノ色具ラサルヲナシ故ニ唯質ト謂ヒ唯色ト謂フ之ヲ總テ形ト謂シナリ色變スレハ形滅ス滅スレハ之ニ代ルノ新體亦生ル此形質ハ則森羅萬象ニシテ日月星辰及地球ノ如キハ始アリテ終ナキモノナリ故ニ變更ナシ朝ニ生レテ夕ヘニ死スルハ

動植物ノ常ニシテ初アリテ終ナキヲ得ス故ニ變更體ノモノナリ人其生ル、ヲ視テ其死スルヲ視レハ其形全ク消滅シテ人目ニ觸ル、ナキヲ以テ何ソ無盡ノ理アラシヤト今此ニ一ノ獸居レリ全體ノ重目ヲ量ルニ百斤アリ此百斤ハ永遠不拔ニシテ決シテ盡ルモノニアラス而シテ其體格肥滿ノトキ百斤ノモノハ疲瘠スレハ八拾斤ナラン其減量ニ拾斤ノモノハ何レニ歸リタルヤ一物消ヘテ一物生ル、カ如キ其間或ハ融液體トナリ或ハ浮氣體トナルモ其重量ニ

至リテハ更ニ増減アルナシ而喻ヘハ試ミニ一
球ヲ天秤ニ懸ケ錘ヲシテ衡ヲ平直ナラシメ而
シテ此球上ニ粟顯ハレ豆顯ハレ虫生ス其種々
ノ物品或ハ現出シ或ハ消散ス隱顯出没定マリ
ナキモノトシ而シテ錘ニ關係ヲ及スナク衡
依然トシテ更ニ傾斜アルナキモノアラハ之
ヲ觀ルモノ奇異ノ思想ヲ抱キ其原因ヲ探ラサ
ルヲ得ス此地球ニ於ル眞ニ玄妙ノ理アリ其環
遶スル大氣中ニ物品腐敗シ或ハ浮氣體トナリ
タルモノモ引力ニ依リ域外へ脱漏スルナシ能ハ

ス再ヒ此地ニ降リテ新ニ物體生ル、結果アリ
水ノ如キ太古一升ノモノハ現今モ一升ノミ其
減量ニ拾斤ノモノハ則五行ニ歸リタルモノニ
シテ唯形體ノ變化スルノミ能ク新陳交代スト
雖其重量ニ至リテハ始終異同ナキモノト論ス
ル所以ナリ人ハ天地一體不死不滅ナルヲ悟
ルヘシ故ニ萬物ト其心一體ナラサルナシ亦
一體ノ仁具ラサルナシ薪炊雲ヲ為シ土ヲ為
ス雲土ヲ濕ス土亦物ヲ生ス

生理原論

地球旋轉シ寒暑往來ス焉ニ萬物蒸々トシテ生
 ル動物常ニ炭素ヲ吐テ植物之ヲ吸フ植物常ニ
 酸素ヲ吐テ動物之ヲ吸フ動物ヲ四類ニ分ツ曰
 ク胎生曰ク卵生曰ク鱗介曰ク昆虫是レナリ胎
 生ノ族ヲ分チ亦植物ノ類ヲ分ツ而シテ其生活
 スル所以ハ求メテ食スルト地味ヲ吸フトニ依
 ル人ハ最靈ナルモノニシテ特殊ノ性情ヲ具ヘ
 テ活潑ノ氣力アリ其體タル骨以テ幹トナリ枝
 トナリ或ハ撓ミ或ハ曲ル節以テ順次ヲナシ筋
 腱以テ之ヲ維持シ縛ルカ如ク搦ムカ如シ是レ

屈伸自在ナル所以ニシテ之ニ皮肉密著シテ毛
 髮外要ヲ守護ス血液循環シ脈絡活動シテ生息
 ヲ得首ハ頭顔ヲ以テ為リ耳目口鼻具リ視聞嗅
 嘗ヲ司ル額眉臉頰唇頷アリ胴ノ部ニ肩胸兩脇
 腹背腰アリ上肢ニ臑腕手指アリ下肢ニ腿脚足
 趾アリ内部機關ノ密ナル造化ノ精工極メタリ
 ト謂ツヘシ諸器相合シテ一致ノ用ヲ達ス若シ
 一器ヲ損スレハ其用ヲ達セサルノミナラス苦
 痛ニ堪ヘサルハ物生離ル可カラサル者ナリ而
 シテ生ノ原アリ其原ヲ宰ル者ハ則神ナリ生ヲ

仁ムハ政教ノ本體ニシテ貧賤ヲ厭ハス臭穢ヲ忌マサルハ醫ノ綱目タリ靈魂ノ寓スル屋宅之カ保存法ニ籍テ健全ヲ為ス時ニ將ニ頽廢セントシテ亦修復ノ方ナキニアラス故ニ衛生ノ道怠ル可カラス生理學講スヘシ夫レ人初メテ胎ルヤ天之御中主神ハ高皇產靈神神皇產靈神ノ功ヲシテ陰ニ顯ハシ陽ニ顯ハシ日ヲ積ミ月ヲ重ヌルニ隨テ筋骨皮肉眼耳鼻口等具リ完全ノ體格ヲナス則日月ノ大德ニ浴シ終ニ人ト生ル、ニ至ル而シテ靈妙不測ナルモノハ魂ナリ此

魂タルヤ形ナケレハ死セス朽チス唯物體ニ寓ス其妙用顯ハレテ五官ニ出ツ物體一回朽レハ魂歸スル處アリテ猶存セリ生ノ生タルモノハ唯靈ノミ質アレハ必ラス靈具ヲサルナシ動植能ク氣ヲ吐テ能ク氣ヲ吸フ之ヲ收メテ以テ健康ヲ得之ヲ收メテ以テ繁茂ヲ得嗚呼人ノ魂神ノ如ク體ハ則五行ナリ是レ人ハ天地萬物一體ナル所以ニシテ生々化々極リナキモノナリ

人種論

世界ノ人種原一ナルカ或ハ數種ナルカ五大洲

ヲ周遊スレハ凡ソ五種ニ分レタル其色顯ルシ
 キ容貌ヲ觀ル可シ是レ氣候ノ均シカラサルニ
 由ルモノカ或ハ祖先ヲ異ニスルモノカ邈遠ト
 シテ究ム可カラス或ハ曰ク舉世神道ニ非ルハ
 ナシ伊弉諾伊弉冊ノ二神初メテ出現シ國土山
 川草木ヲ生成シ給フ於是男女愛情ノ道ヲ開キ
 蒼生播殖ノ基ヲ立給フ則人種一ナリト雖神代
 ヲ講究スルニ當テ造化氣化形化ノ差別アリテ
 解説モ一樣ナラサルカ故ニ動モスレハ衆説ニ
 惑フアリ大活眼ヲ開テ蘊奧ヲ究ム可キノミ

男女ノ道ヨリ生シタルモノニ非レハ子孫播殖
 スルモノトモ思ハレス伊弉諾伊弉冊尊ノ以前
 ニ夫婦ノ道アリシヲ聞カス二尊ノ子孫外國
 へ渡リテ祖先トナリタルハ確乎タリ吾國ノ
 古國ナルハ萬國ノ能ク知ル所ナリ於是人新
 地ヲ發見スル毎ニ其地固有ノ人民アルヲ觀ル
 嘗テ思惟ス天地開闢以來人ノ此地ヲ踏ム者ハ
 自己ヲ以テ嚆矢トス何ソ人跡アルノ理アラン
 ヤト豈ニ圖ラン天之御中主神ハ伊弉諾伊弉冊
 ノ子孫ヲ各處へ移住セシメテ福德ノ基ヲ立給

フ故ニ人種ノ區別ヲナシ彼此相舁ミ相侮ルノ
理有ンヤ均シク同位同等ニシテ貴重ノ靈魂ヲ
天ヨリ賦與セラレタルハ皆一ナリ此地球上ニ
棲息スルモノ誰カ始祖ノ恩澤ヲ奉セサルモノ
アラシヤ萬國人民各一氣ヲ呼吸シ同シ性情ヲ
具ヘ元祖ヲ共ニスルノ同胞兄弟ナレハ同情相
救ヒ相憐ムノ大倫アレハナリト夫レ一國ニハ
一國タルノ法律アリ道德アリ宗教アリテ一ノ
習慣ヲ為セリ此習慣ハ一大緊要ニシテ國體ノ
存スル所ナリ萬國人種其元一祖ヨリ興レルヤ

否ヤニ至リテハ容易ニ知ル能ハス一國ニハ一
祖ヲ奉シ他國ト大ヒニ異ナルモノアリテ國體
ヲ為セリ縱將來如何ナル場ニ遭遇スルトモ決
シテ苗裔ヲ亂ル可カラス國家繁盛スル所以ノ
モノハ祖先ノ偉徳ナリ子孫永久ノ基ハ祭事ヲ
怠ラサルニ有リ日本固有ノ精神ヲ養ヒ以テ國
權ヲ皇張ス可シ民權ヲ主全ス可シ情西國ノ状
態ヲ推考シ十八世紀ヲ觀以テ現今ノ形況ヲ鑒ミ
而シテ十七世紀ヲ顧レハ大變化ノ流動アリ或ハ
歷伏ノ破裂ヨリ滿天ニ雲ヲ興スアリ或ハ一豪

傑ノ為ニ國土ヲ併吞セラル、アリ或ハ蒸氣伸縮ノ作用ヲ發明シテ終ニ汽船汽車ヲ製造シ氷天驟ニ花ヲ開クノ姿アリ而シテ一習慣ノ勢力加マス熾ンナルモノアリ何ソヤ曰ク強國ノ權カヲ以テ弱國ヲ壓スルヲ甚シク則弱肉強食ノ舉動是レナリ神ハ暴虐兇殺ヲ誠メシナリ故ニ文明正理ノ旗ニ敵スルヲ能ハサルモノアリテ漸々諸國交際ノ道開ケ宗教ヲ尊ンテ戰爭ヲ戒メリ時勢ノ變遷ニ注目スレハ或ハ未來地球上大公平ヲ計リ金甌無缺ノ世界ヲ觀ルヲアラン

カ故ニ人種ヲ論スルニ當テハ上ニ溯リ深ク顧省セスンハ有ル可カラス日本ハ神州ノ本國ナルカ故ニ神代ノ事實明カニ傳ハレリ臣民誠忠以テ國威ヲ世界ヘ輝スニアルノミ

人壽論

山ヲ樂ミ水ヲ樂ミ神州ニ萬年ノ春ヲ占ム天萬物ヲ鑄造シ之ヲ彩飾ス人進ンテ天ノ與フル者ヲ取り馬ニ能ク衣食ス螢雪ヲ經テ其智ヲ磨キ健康ヲ得テ其勇ヲ養フ忍耐能ク困苦ニ克ツ剛毅能ク邪氣ニ克ツ而シテ壽ヲ樂ムモ其中ニア

リ人ノ命數大凡際限アリト雖攝生能ク氣ヲ養
ヘハ壽ヲ得ル亦難キニアラサル可シ日本ハ神
國ニシテ人ニ長壽ノ幸ヒアリト云神代ニハ數
百千歳ヲ經ルモ尚不老ナリト人皇ニ至リテ其
壽頓ニ減スト雖仁德帝ノ比マテハ萬民ノ壽命
通常一百餘歳ヲ得タリト則仁德帝以前ノ壽算
ヲ觀テモ其槩畧ヲ知ルニ足ル亦倭姬命ノ壽五
百六十歳武内宿禰ノ壽三百十六歳等ハ人皇ノ
世ニ最モ高壽ナルモノト謂フヘシ若シ上世萬
民中ヲ調フレハ二百餘歳ノ壽ヲ得シ人枚舉ニ

暇アラサル可シ故ニ吾神州ハ古來蓬萊島ノ名
アリテ神仙ノ住ム處トナシ不老不死ノ仙藥ア
リト其名聲外邦ニ高キカ故ニ秦ノ始皇ノ時徐
福童男童女ヲ率ヒ吾國ニ來リ三神山ノ仙人及
ヒ不死ノ藥ヲ求メシトアリ然ルニ吾國ニハ別
ニ仙術妙藥アリテ然ルモノニアラス唯天神地
祇ノ苗裔ニシテ神州温厚ノ風ヲ以テ天然自然
ノ氣ヲ養フ則是レナリ上世ハ人民淳朴ニシテ
寡慾清淨ナリシト云如何ナル原因アリテカ人
壽減シテ僅五十歳ヲ以テ人ノ一代トナスニ至

レリ古人ハ一百餘歳ヲ以テ人ノ一代トナセリ
 今ハ六十歳ヲ過レハ暴ニ氣力ヲ落シ人事ハ既
 ニ終レリトシテ死ヲ待ツノ風アリ亦常ニ曰フ
 者アリ已ニ一生ノ定命ヲ越シタレハ人ノ壽ヲ
 貪ルニ似タリ縱へ死スト雖豈ニ満足セサル可
 シヤト嗟安ソ之ヲ寡慾ト謂ン人ハ唯氣力ニ依
 ルノミ上世ノ人壽ト今世ノ人壽トヲ對照スレ
 ハ固ヨリ過半ヲ減シタルモノナラン或人曰ク
 今世ノ人情頼ミナクシテ性命甚夕堅固ナラス
 時トシテハ不慮ノ惡疫流行シテ大ヒニ人生ヲ

減スル等ニテ人壽平均凡ソ三十歳内外ナルヘ
 シト此不幸兄弟妻子ヲ失ヒ親戚朋友ニ離ル、
 等ノ艱難災厄ノ繁多ナルヲ知ルヘシ安堵スル
 ノ時間寡クシテ愁傷スルノ時間多キハ何等ノ
 原因アリテ然ルヤ古へノ天地ト今ノ天地ト豈
 ニ異ナルヲアランヤ今ハ開化シテ世上美ナル
 ノミ唯異ナルモノハ人ノ思念如何ニ有ルノミ
 而シテ其短命ノ原因トナルモノ亦多シト雖人
 ノ如何トモ為ス可カラサルモノカ亦天ノ然ラ
 シムルモノカ社會ハ總テ氣力ヲ以テ成ル氣力

アツテ能ク治ル治ツテ能ク健ナリ健ニシテ能ク壽ヲ得豈ニ氣力養ハサル可シヤ萬國ノ歴史ヲ緋キ世ノ變遷ニ注目スレハ其弱肉強食ノ世ヲ亂スト共ニ一般ノ人壽減スルモノアリ雖然天ノ生ヲ愛セラル、古今異ラサル可シ故ニ世界ヲ調レハ尚百餘歳ノ壽ヲ保チタルアラン之ニ依テ鑒ミルニ今ヲ以テ強チ短命ノ世ト謂フ可カラス而シテ今世界ノ人ヲ視ルニ十八九ハ病ヲ以テ終レリ噫病ハ天之ヲ作ルヤ人亦之ヲ作ルヤ大木ノ年ヲ經テ後ニ枯ル、モノハ病

ニアラス則天然ノ生ヲ終リタルモノナリ而シテ植物ノ長タルモノハ何ソヤ松ナラン松ハ千年ノ齡ヲ延フト其他樟ナリ檀ナリ永ク生ヲ保ツモノ夥多草ノ如キモ寒氣ノ為ニ凋ムト雖生氣根ニ藏リ春陽ヲ待能ク發芽シテ止マサル者アリ故ニ植物ハ一體天然ノ生ヲ保チタルモノト謂フ可シ而シテ動物ノ長タルモノハ何ソヤ人ハ萬物ノ靈ニシテ他ニ比スヘキモノナシ而シテ人ノ寶トスルモノハ何ソヤ曰ク壽以テ寶トスト而シテ壽ハ天命ナリトシテ亦之ヲ論セ

サルモノアリト雖豈ニ本意ナラシヤ今動物世
 界ヲ觀ルニ弱肉強食ヲ常トシテ天然ノ生命ヲ
 保フヲ能ハス然ラハ動物ハ不幸ナル世ニ生レ
 來タルモノト謂フ可キカ噫天ハ非常ノモノニ
 此幸ヲ與ヘ有情ノモノニ此不幸ヲ與フルヤ鶴
 一度大洋ヲ越レハ蓬萊ノ地ヲ相シテ不死ノ仙
 境トナシ永年ノ星霜ヲ經テ其壽ヲ樂ム亦老テ
 益マス壯シナル猿猴ノ如キモノアリ亦江海ニ
 數百歳ヲ經ル鱗介ノ栖ムアリ然ラハ動物強チ
 短命ナリト謂フ可カラス天萬物ニ壽ヲ與フル

能ク相應セリト故ニ壽ナル動物ハ夫ナル動物
 ニ比スレハ其體格稍完全ニシテ其智モ稍聰敏
 ナリ嗚呼人壽漸々蹙ルヲ觀ル奚ソ顧ミサル古
 人ハ智慧矇昧ニシテ今人ハ智慧活達ナリ此智
 ヲ以テ體ヲ養ヒ徳ヲ全フシ以テ人壽ヲ堅固ニ
 ナス何ノ難キヲ力之アラシ其壽ヲ得ル所以ハ
 畢竟修養丹鍊ノ功ナルノミ人ノ此世ニ生レ其
 目的トスルモノハ身體健全ニシテ福德ヲ得永
 ク壽ヲ保ントスルニアルノミ是レ上古神聖ノ
 壽ヲ喜ヒ死ヲ哀ミ深ク民ヲ仁マル、故ニ徳ヲ

養ヒ生ヲ厚フスルノ教ヘヲ開カレシ所以ナリ
夫レ神州ニ生レタルノ功ヲ顯ハシ三種ノ神教
ヲ奉體シテ永ク天壽ヲ保ツヘシ其病ヲ避ケヨ
其死ヲ避ケヨ而シテ生ハ天ノ命ニシテ人ノ自
由ニナス可カラサルモノアリ神ノ冥助ニ依ラ
スンハ豈亦得ン仁愛ハ則壽ヲ保ツノ道ナリ
世ノ文明ニ伴フテ人壽モ亦堅固ニナルハ自然ナ
リ野蠻國ノ人民ト文明國ノ人民トハ其壽大ヒ
ニ差アリ衛生ノ道開ケ未來或ハ長壽ノ世ニ進
マン古今萬物ニ徴シ余ハ其長壽ヲ異シマス反

テ其短命ヲ異シム天之ヲ回復セヨ人之ヲ回復
セヨ

體育論

夫レ教育タルヤ體育ト智育トハ天地ノ如ク相
俟テ離レサルモノナリ之ニ德育ヲ要セサレハ
全キ人トナルヲ得ス凡ソ世界ノ人體格強壯ニ
シテ活潑ナル國アリ懦弱ニシテ因循ナル國ア
リ是レ體育ノ宜キヲ得ルト得サルトノ結果ナ
リ而シテ幼年ヨリ清雅ヲ好ムノ性アリ勇武ヲ
好ムノ性アリ而シテ文人ト為リ武人ト為ル文

武兩道ヲ以テ天下ノ治平ヲナスト文武ハ車ノ
兩輪ノ如ク相俟テ功用ヲ奏スルナリ人ニ強ア
リ弱アルハ天性ニシテ人之ヲ如何トモナス能
ハス雖然教育ノ慣習ニ依テ亦之ヲ自由ニナス
モノアリ余體育ノ貴重ナルヲ知リ其得失ヲ論
セント欲スルニ甚夕困難ス偶ニ友來リテ之ヲ
論ス甲曰ク凡ソ人ノ體格ニ異同アリ亦強弱ノ
違アルハ一ニハ生質ニ由ルト雖教育ノ慣習ニ
依リテハ亦其自由ヲ得ルモノナリ乙曰ク人ノ
體格ニ大小強弱ノ相違アルハ氣候如何ニ因ル

熱國ノ人民ト寒國ノ人民トハ其體格相違セザ
ルヲ得ス是レ氣候ト地質ノ然ラシムルモノニ
シテ人之ヲ自由ニナスヲ能ハス甲曰ク氣候異
ナレハ風俗モ異ナリ亦體格モ異ナルカ如キハ
熟知セザルニアラスト雖一國內一家兄弟姉妹
ニ於ルモ其強弱體格ノ違アルハ何ソヤ是レ胎
養體育ノ如何ニ依テ其差ヲナス者ナリ身體強
壯ナラサレハ精神活潑ナラス事業發立セス國
家富强ノ基ハ體育ニ有リ國ノ習慣ニ依リテハ
小兒生育上天然ヲ曲ルモノアリ而シテ之カ強

テ慣習ヲ作ルモノハ或ハ之ヲ以テ美トナスノ
 風俗アリテ世ノ開化ニ後ル、者アリ此習慣ハ
 一身ノ不完全ヲナスト雖及テ之ニ甘ンシテ亦
 異シマサルモノアリ總テ小兒ノ忌嫌スルモノ
 ヲ強テ行フハ發生上ニ害アリ深ク鑒ミスンハ
 有ル可カラス之ニ反シテ歐米各國ノ體育方ニ
 完全ヲ得タルハ真ニ稱讚スヘシ乙曰ク甲ハ日
 本體育方ノ歐米各國ニ遠ク及ハサルノ意見ナ
 ルカ吾國體育方完全ナルノ結果ハ歴史ニ顯レ
 テ章々タリ其體育ノ要ハ強健ヲ主トスルニア

リ智勇ノ寓スル何ソ身體ノ大小ニ關セシ其身
 體強壯ニシテ百餘歳ノ壽ヲ得タルハ上世ノ常
 ナリ其君命ヲ奉シテ天下ヲ維持シタル忠臣武
 勇ノ顯ルシキ之ヲ枚擧スルニ暇アラス一騎當
 千ノ勇アルハ日本人ニ限ルト謂ヘリ是レ體育
 ノ善良ヲ得タルノ結果ニアラスヤ國ノ習慣ト
 人ノ性質トニ注目シテ適當ノ教育ヲ施サス
 ハ有ル可カラスト上ニ論スル者ヲ以テ熟考ス
 ルニ體育真ニ難シト雖教育ノ慣習ニ依テ亦難
 シトス可カラサルヲ漸クニシテ覺リタリ苗

ノ如キモ之ヲ天然ニ捨置ク時ハ或ハ縮ミ或ハ
屈シテ完全ノ稻トナル可カラズ況シヤ動物ニ
於テチヤ其倍養ノ厚薄ニ應シテ收穫ノ多寡ヲ
觀ル可シ而シテ體育ノ方タルヤ亦多シト雖凡
ソ一國都鄙山海ニ應シテ食物モ一樣ナラス體
育方ニ舊慣墨守スルモノアリ此習慣ハ最モ緊
要ナルモノニシテ之ヲ俄ニ變更スルト難シ運
動ノ必用ナルトハ人皆之ヲ知ル夫レ仁愛ヲ主
トスルハ政教ノ本體ナリ此ニ胎養ニ溯リテ之
ヲ論セン文明ノ世ニ誰カ墮胎壓殺ヲ甘シシテ

天命ヲ恐レサル者アランヤ或人曰ク世界中ノ
人口平均一方里ニ凡ソ幾人ナルヤ此人數ヲ以
テ土地ヲ開クニ足ル可キヤ亦文明ヲ望ムニ足
ル可キヤ是レ地球上ニ蠻野曠原アル所以ナリ
天ノ生民蕃殖ヲ欲セラル、亦切ナリト謂ツヘ
シ人天命ノ重キヲ悟ラサルモノアリト依之鑒
ミルニ將來人口多キノ國ハ富強ヲナシ人口寡
キノ國ハ衰廢ヲナスハ亦自然ナリ其都府華麗
ヲ極ムルト謂フモノハ畢竟人口多キノ奏功ナ
リ嗚呼天祖ノ光訓天下ニ滿ツ三種ノ神教ハ治

國ノ要ニシテ道德ノ根元ナリ而シテ武勇ハ吾
 國ノ特優ニシテ外人ノ眼ヲ驚カスモノアリ臣
 民能ク武勇ニ富テ其義務ヲ盡シ國家ヲ守護セ
 リ是レ吾神州體育法ノ自然ニ具ハリタルモノ
 ナリ其權理ヲ妨クル者ナク自由ノ空氣ヲ呼吸
 シテ此土ニ衣食シ仁政ニ浴スル久シ吾國長壽
 特風アルニ注目シテ健全ノ策アル可シ子弟ノ
 體育不完全ナル時ハ國家ノ元氣衰へ智育ニ暇
 アラス斯ノ形況ニテ何ヲ以テ富强ヲ計ラン何
 ヲ以テ國權ヲ張ラン文ヲ敷キ武ヲ練リ上下一

致協力進取シテ開明ノ度ニ達スヘシソレ體育
 ヲ專ラニシテ固有ノ日本魂ヲ養フニアルノミ

明治二十年十二月三日版權免許
明治二十二年十一月八日印刷
明治二十二年十一月十日出版

正價

版權所有

著作兼發行著

印刷者

發賣元

同

賣捌

書肆

備前國上道郡浮田村大字倉尻三番邸

藤原道基

備前國岡山市大字野田屋町七十番邸

丸山三造

岡山市大字西大寺町三番邸

武内彌三郎

岡山市大字上之町

細謹舍

大阪東區本町四丁目五十九番邸

岡島真七

東京日本橋區三丁目

丸善書店



